

【山梨県】

県立特別支援学校に係る校務DX計画

1 校務DX化チェックリストを踏まえた課題について

文部科学省調査「令和6年度GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト（速報値）」による自己点検の結果から、次の項目での達成状況が全国平均より低い結果となっている。

- ・児童生徒の欠席連絡受付、保護者への情報発信等におけるクラウド利用
- ・職員会議のオンライン実施や会議資料のペーパーレス化

2 1の課題を解決するために必要な取組について

- クラウド型の統合型校務支援システムの導入（令和7年4月稼働）を予定しており、児童生徒の欠席連絡や通知の配布など保護者との連携についてデジタル化を進める。
- データの一元管理による類似情報の重複入力の排除や自動集計により、手入力作業を削減する。
- 学校ごとに異なる指導計画等の様式を統一し、同システムで管理する。
- 職員会議の実施や会議資料の共有等にMicrosoft Teamsを活用し、資料等のペーパーレス化や働く場所の多様化などを進めていく。さらには、授業での教材の共有、オンラインによる保護者面談や授業などを実施する。
- 令和6年度には「校務DX事例創出モデル事業」を実施し、モデル校における校務遂行上の課題を抽出し、その解決に寄与する校務DX事例を創出しており、令和7年度以降に全県立学校へ横展開し、県立学校全体での業務改善を進めていく。
- Microsoft365、メールアドレス、統合型校務支援システム等のアカウントを配付しており、教育委員会や教職員間の提出書類についての電子化や押印見直しに取り組んでいる。今後は実態把握を行い、さらに取り組みを進め、校務の効率化、ペーパーレス化を進めていく。

3 校務DX計画において目指す姿

- クラウド利用・ペーパーレス化による教育データの利活用、個別の教育支援計画、指導計画等の共有により教職員のチームプレイを促進することで、児童生徒に対する効果的な指導の実現と校務の効率化による教職員の負担軽減を図る。
- 一人一人が業務の効率化を意識することで、教職員が自ら働き方を改善する姿勢を育成する。
- 教職員の空き時間を創出することで、ワークライフバランスを向上させ、自己研鑽や生徒と向き合うための時間を確保する。